

Ⅲ 人権教育の指導資料・実践事例



(ホオズキ)

「わたしのジャガイモ」

所要時間 45～50分

対象 小学校中学年以上

ねらい

- コミュニケーション力
 ・積極的に自己表現し、友だちをつくる。

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ●自己紹介を発表し合い、少しではあるが、お互いの良さを知ることができた。今日は、ワークショップを通して、さらにお互いを知っていこう。 ●ウォーミングアップ『なんでもバスケット』 <ul style="list-style-type: none"> ・机は教室のはしに片づけ、イスを丸く並べる。 ・最初は、指導者から始める。 ・[ルール] 個人攻撃と隣の席への移動は禁止。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルールを確認する。 ○安全を確保する。
<ul style="list-style-type: none"> ●「わたしのジャガイモ」 <ol style="list-style-type: none"> ①指導者によるモデリング ②自分のジャガイモを一つ決めて手に取る。 ③ジャガイモを自分だと考えて自己紹介を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・名前・ニックネーム・チャームポイント ・好きな食べ物・好きな色等 ・好きな言葉・願い等 ④班になって、ジャガイモを見せながら自己紹介。 ⑤お互いに聴きあった感想を記入する。 ⑥ジャガイモをテーブルに戻す。 ⑦たくさんの中から自分のジャガイモを見つける。 ⑧ジャガイモを見せながら班の中で一言ずつ感想を言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者がモデリングをすることで、子どもたちの雰囲気盛り上げるように配慮する。 ○班の話し合いの様子を観察する。 ○全員が自分のジャガイモを見つけられたことの意義を確認する。
<ul style="list-style-type: none"> ●感じたり、考えたりしたことをふり返る。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ふり返りシートに記入する。 ●全体でわかちあう。 <ul style="list-style-type: none"> ◇可能な範囲で発言する。 ●（感想をまとめ、指導者がワークしている中で気づいたこと、がんばっていたことを伝える。） ●今日のワークは、ジャガイモを使いながら、楽しい雰囲気の中で、ちょっと変わった自己紹介ができた。自分のコマースタル、そして「わたしのジャガイモ」というワークを通して、自分の良さを発見できたし、班の仲間のことを知ることができた。これからもお互いの良さをもっと見つけ、仲間づくりを進めていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○静かに記入する時間にすする。 ○多様な意見を取りあげる。 ○工夫したり、悩んだり、頑張っていたことを評価する。 ○今日の学習が、今だけでなく、これからのクラスづくりの基本となることを伝える。

留意点等

○活動の流れは、中学校1年生1学期の人間関係づくりの学習第1時として考えられたものであるが、小中学校の各学年の発達段階に応じ、内容・時間等を工夫して取り組むことができる。

（大阪府松原市立松原第七中学校の実践より）

「班の仲間との時間を共有しよう！（さいころトーキング）」

所要時間 45～50分

対象 小学校中学年以上

ねらい

- 対人関係
 ・信頼して、自己開示する。
 決断と問題解決
 ・選ぶことの意味を理解する。 ・自分の意志で選択することの大切さに気づく。

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ●ウォーミングアップ「日本語ビンゴ」 <ul style="list-style-type: none"> ①4×4マスの用紙を用意する。 ②「好きな食べ物」を16マスに書き込む。 ③指導者から順に「好きな食べ物」を発表する。 「私の好きな食べ物は○○です。△△さんの好きな食べ物は何ですか？」 ④順に好きな食べ物を発表しながら指名していく。 ⑤たて・横・斜めがそろったらビンゴ！ ●日本語ビンゴは、簡単なゲームだが、誰が何を言うか楽しみでもあるし、つながりを感じることでできるゲームでもある。 ●今日の目標 中学校に入学して2ヶ月半。新しい班の仲間に関心を持ってもらうゲームをします。さらに、自分の中のどんなことをみんなに知らせるのか、自分で選ぶスキルもみがいていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が楽しくゲームに参加できるように配慮する。 ○今日のねらいを板書して、印象づける。
<ul style="list-style-type: none"> ●『さいころトーキング』その1（浅めの自己開示） <ul style="list-style-type: none"> ①さいころをふる。 ②シートにある、出た目の数について一人一人話をする。 ③同じ目が出た場合は、班でパスするかどうか話し合っ決めて。 ④全員がゴールすれば完了。 ●『さいころトーキング』その2（やや深い自己開示） （さいころシートを代えて実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ○うまく話せない内容については話せる範囲でよいことを確認する。 ○困っている生徒がいる場合は、アドバイスする。
<ul style="list-style-type: none"> ●感じたり、考えたりしたことを振り返る。 ◇ふり返しシートに記入する。 ●全体でわかちあっていこう。 ◇可能な範囲で発言する。 ●（感想をまとめ、指導者が、ワークしている中で気づいたこと、がんばったことを伝える。） ●今まで知らなかった仲間のことを、少し知ることができた。みんながんばって自分を開き、自分のことを話すことができた。何を話そうか、自分の中にあるいろいろなことをふりかえりながら、短い時間の中で決めて、みんなに知らせることができた。「自分を自分で振り返り、自分で選んだことを発表する」というスキルを学ぶことができた。 ●これから、班の仲間と協力して、取組をすることがたくさんあるが、もっともっとお互いの理解を深められるように話をしていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○静かに記入する時間にする。 ○多様な意見を取り上げる。 ○工夫したり、悩んだり、がんばっていたことを評価する。 ○自己開示、自己選択のスキルアップに取り組んだことを評価する。

留意点等

- 活動の流れは、中学校1年生1学期の人間関係づくりの学習第2時として考えられたものであるが、小中学校の各学年の発達段階に応じ、内容・時間等を工夫して取り組むことができる。
（大阪府松原市立松原第七中学校の実践より）

さいころトーキング 1

1 わたしの好きな食べ物はこれ

2 わたしの好きな芸能人はね～

3 最近ハマっていることは！

4 好きなテレビ番組と言えば

5 行ってみたい場所があるの！

6 好きなスポーツや選手は！

さいころトーキング 2

1 感動……感動したこと！

2 自分の長所&短所はね～

3 将来の夢はこれ！

4 最近ショックだったこと

5 願いが一つかなうとしたら！

6 自慢できること

「よろしく！こんなわたしです（すごろくトーキング）」

所要時間 45～50分

対象 小学校中学年以上

ねらい

- 対人関係
・信頼して共同作業を進める。

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ●新しい班が決定。仲間と力を合わせて協力し、仲間との関係を深めることを目標に、いくつかのエクササイズに挑戦していこう。 ●ウォーミングアップ「絵しりとり」 <ul style="list-style-type: none"> ・班に5枚～6枚の紙とペンを渡し、班で絵を描きながらしりとりをしていく。 ・何を描いたかなどはしゃべらない。 ●班で1周したら、全員で交流。 <ul style="list-style-type: none"> ・各班の作品を紹介する。 ●絵しりとりをして、班でつながりを感じることができたんだろうか。今日は、新しい班の仲間ともっとつながっていけるようになるワークを試みよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期の活動の流れ、目標を伝え、自分たちの課題を考えさせる。 ○画用紙、ペン ○今回の学習のねらいを伝える。
<ul style="list-style-type: none"> ●『すごろくトーキング』第1ゲーム <ol style="list-style-type: none"> ①さいころをふって、出た目の数だけコマを進める。 ②止まったコマに書いてある質問に答える。 ③ゴールした人は、ゴールしていない人が答えた時、一言感想を言う。 ④全員がゴールすれば完了。 ●『すごろくトーキング』第2ゲーム。 (すごろくシートを代えて実施) ●今、すごろくトーキングで、少しだけ自分のことを、班のみんなに語った。お互いに、今まで知らなかったことを少しだけ知ることができた。相手のことをもっと知りたいと思っている人もいよう。今日は、お互いを知り合う初めの一步。これをきっかけに、班の仲間のいいところをいっぱい発見していこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班活動を確認しながら、つまっている場合はアドバイスする。 ○コマの選び方や、進め方に注目する。 ○すごろくは進んでいくほど深い質問になっている。
<ul style="list-style-type: none"> ●感じたり、考えたりしたことをふり返る。 ◇ふり返りシートに記入する。 ●（指導者が、エクササイズ中に気づいたことを伝える。） ●「すごろくトーキング」などのエクササイズをしながら、班やクラスの仲間のことを知っていくことは楽しいこと。今まで知らなかったことに気づいたり、発見したりすることは楽しい。でも、エクササイズをしなくても、毎日一緒に過ごしていれば、たくさんの気づきがある。相手のことをしっかりと見つめ、語り合うことで、個性や頑張りが見えてくる。今日のエクササイズをきっかけに、お互いの理解を進めていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今日のエクササイズは仲間づくりの第一歩であることを確認し、これからの班での仲間づくりが大切であることを理解させる。

留意点等

- 活動の流れは、中学校1年生2学期の人間関係づくりの学習第2時として考えられたものであるが、小中学校の各学年の発達段階に応じ、内容・時間等を工夫して取り組むことができる。
(大阪府松原市立松原第七中学校の実践より)

私の誕生日	通っていた幼稚園 保育所	体育大会の一番の思い出	初恋はいつ?	担任の先生に一言	直したい くせ	自分を動物に例えたら
得意な料理	休み時間 していること	今ほしいもの	班の人に一言	校外学校での心配事	シヨック だったこと	最近のマイブーム
苦手なこと	心に残る ニュース	楽しみなこと	気に入っていること	中学卒業したら	悲しい出来事	
得意なこと	家での 習い事	気になること	不思議な体験			
好きなテレビ番組	苦手なスポーツ	好きなスポーツ	苦手な教科	得意な教科	苦手な食べ物	好きな食べ物



フォトランゲージ（写真合わせ）

所要時間 20～45分

対象 小学校高学年以上

ねらい

- 様々な状況の中で共に生きている人々の姿や思いに関心を持つ。
- 写真合わせをする活動によって、コミュニケーションをとる楽しみを知ったり、自分の見方に思い込みがあることに気づいたり、人によって見方・考え方が違うことよさに気づく。

準備

- ・様々な状況の中で共に生きている人々の写真や絵を半分に切ったもの（学習者の人数分）
- ・写真の簡単な説明文を印刷した資料（学習者の人数分）

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）

- 1 写真（絵）を半分に切ったものを児童生徒の人数分用意し、活動内容を説明する。
 - ・半分の写真をよく見て、どんな内容か想像する。
 - ・あと半分をもっている人をさがす。
- 2 学習者に一人一人ずつとってもらおう。
- 3 「よく観察してみよう。想像してみよう。」
（誰が何をしているところか、どんな気持ちか、残りの半分はどんな写真か等）
- 4 あと半分の写真を持っている人を探す。2人組になって、前の席から座っていく。
（写真を見せ合わずに、コミュニケーションを取りながら相手を探す方法もある。）
- 5 初めに写真と出会った時の感想や、自分が予想したことと比べ、どうだったか、お互いに感想を出し合う。
- 6 感想のいくつかをペアで発表してもらおう。
 - ・人によって見方・考え方が違うことや、そのよさについて確認する。
- 7 写真を黒板に貼る。いくつかの写真について説明をし、今後学んでいく人権課題について紹介する。
 - ・様々な状況の中で、困難やハンディを乗り越え、一生懸命生きている多くの人たちがいることを実感させる。

留意点等

- 児童生徒の発達段階に合った写真を用意。
- 写真の裏側に番号を入れておき、写真の説明資料には、その番号ごとに簡単な説明文を作っておく。
- 写真の裏側に磁石を付けておくと、黒板等に張って掲示し、その後の話し合いに活かせる。
- フォトランゲージを導入として、個別の人権課題についてさらに学習を深める流れが考えられる。

人権かるたを作ってみよう

所要時間 45分～90分

対象 小学生以上

ねらい

- 人権かるた取りをしたり、人権に関係するかるたの標語を作ったりすることにより、身の周りにある人の優しさに気づく。
- かるたの標語を発表し合うことを通して、様々な見方・考え方を知る。

準備

- ・人権かるた（グループに1組）
- ・人権かるた標語一覧（一人1枚）
- ・ワークシート 白紙の読み札 札を作る用具 筆記用具（個人）

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）	留意点
1 1つのグループが5、6人になるようにする。	○かるた取りをしない場合は、3の活動に進む。
2 人権かるた取りの遊び方を伝えて、かるた取りを行う。	
3 人権かるた標語一覧表を配り、気に入った標語を選ぶ活動。 「人権かるたの標語の一覧表を配りますので、気に入った標語を選んでみましょう。後で、班の中で、選んだ標語と選んだ理由を発表してもらいます。」 ○班ごとにどの標語を選んだのか、理由と一緒に発表する。	○うまく標語が作れないときは、「あいさつ」「ありがとう」「おかあさん」「おじいさん」など、キーワードを出し合わせる。
4 5・7・5で人権標語を2つ作る活動。 「身近なところであった『よかったなあ』『うれしかったなあ』ということをもとにして、人権かるたになるような標語を作ってみましょう。」	
5 どのような標語ができたか、班の中で発表し合う。 「どのような標語ができたか、班の中で発表してください。発表するときには、どのようなできごとから標語をつくったか発表してください。よいと思った標語を紹介してもらいますので、代表作品を決めておいてください。」	
6 班の仲間が作った標語を、クラス全体でふりかえる。 「班の中の作品で、よいと思った標語とその理由を紹介してください。」	
7 ワークシートに感想を記入します。	

留意点等

- かるた取りをした後に、自分なりの標語（読み札）を作る活動である。時間があれば、かるたの絵札も作る活動も計画できる。

ワークシート 「人権かるたを作ってみよう」 氏名

気に入った標語

気に入った理由

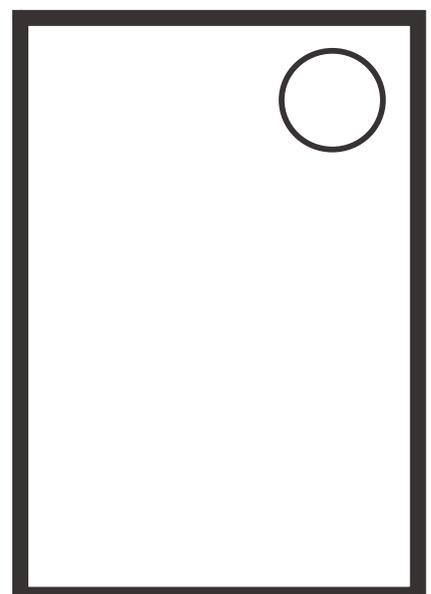
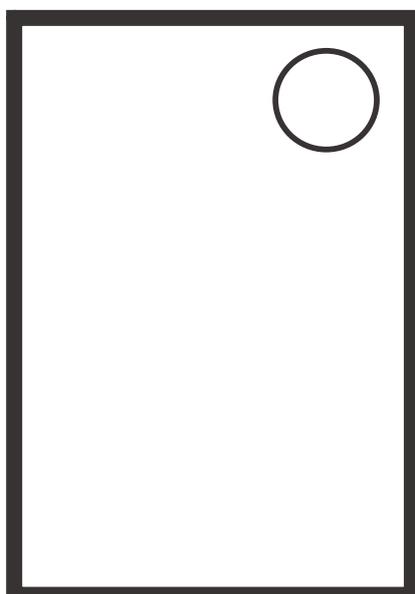
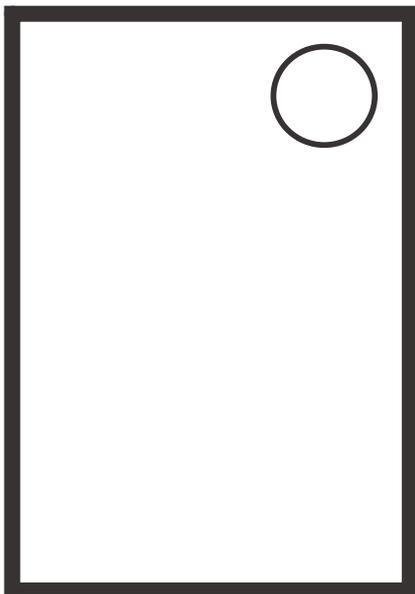
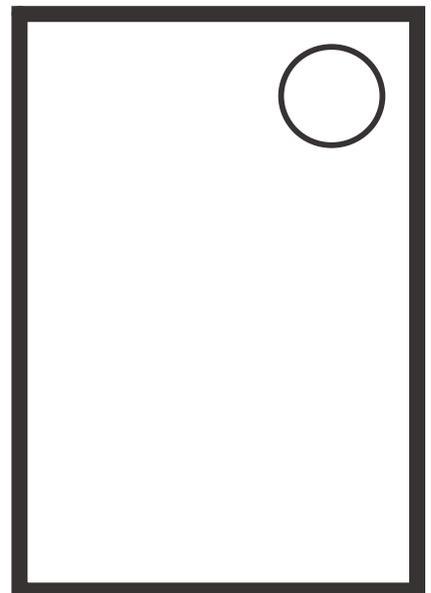
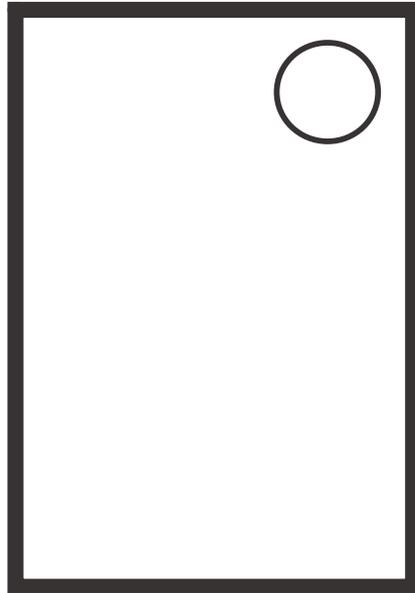
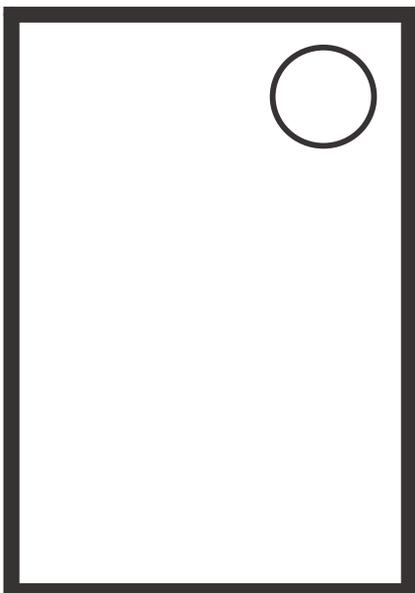
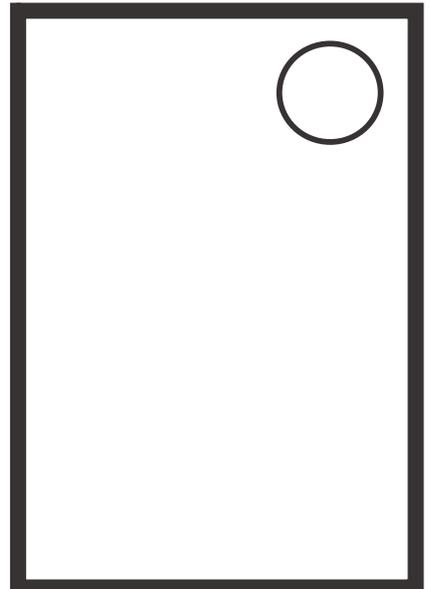
標語を作ってみましょう。この標語を作った理由も書きましょう。

活動をふりかえりましょう。

ワークシート 「読み札」 「取り札」



あ
ありがとう
みんな笑顔に
えがお
なる言葉
ことば



【参考】

【「人権かるた」取りをするときに、あらかじめ考えていただきたいこと】

- 1 参加者全員が楽しみながら「かるた取り」ができるようにしましょう。
- 2 取った枚数を競うより、「どの言葉が心に残ったか」を大切に進めましょう。
- 3 「人権かるた」の言葉を味わうために、かるた取りを始める前に、裏面にある「読み札一覧」表をグループごと（できたら個人）に配っておくとふりかえりのときに役立ちます。
- 4 下の【ルール】をあらかじめ確認し、心温まる場面が見られた場合には、その様子を紹介しましょう。
- 5 終了したら、みんなで「頑張った姿」「いいなと思った姿」を発表し合うことを参加者に確認しておきましょう。
- 6 終了後、「もう1回やろう」という気持ちになれるような雰囲気づくりをしていきましょう。

【カルタ取りのルール（例）】

- 1 手はひざの上もしくは床の上に置きます。全員がその状態になったら、読み手が読み始めます。
- 2 「を」の札は、「を 人権を 守る決意を 語り合おう」のように、「を」と言ってから、札を読みましょう。
- 3 お手つきは1回休みにします。
- 4 同時に札に手をついたときは、年少者が優先、同じ学年なら枚数の少ない方、それも同じならジャンケンで負けた方がかるたを取るようになります。
- 5 札が見つからなかった場合には、そのまま次へ進みます。後で見つかったら札を裏返しておきましょう。
- 6 取り終わったら、札の枚数を一応数えますが、順位はつけません。
- 7 取り終わったら、自分の取った札や読み札をながめて、どの札が心に残ったか振り返ってみましょう。
- 8 グループ全員の札を見て、それぞれの言葉のよさや共感できる言葉を話し合しましょう。

人権かるたの作成：平成20年度人権教育推進のための調査研究委員会

（平成20年度委員会構成…国立信州高遠青少年自然の家・伊那教育事務所・飯田教育事務所・松本教育事務所・伊那市伊那公民館・諏訪市教育委員会生涯学習課）

「人権かるた」は、各教育事務所、各教育会等で、貸し出しをしています。

教育事務所・公民館 貸し出し数各 20 組		下伊那教育会	0265-52-0808
北信教育事務所生涯学習課	026-234-9552	木曾教育会	0264-22-2239
東信教育事務所生涯学習課	0267-31-0252	東筑摩塩尻教育会	0263-32-1187
中信教育事務所生涯学習課	0263-40-1977	安曇野教育会	0263-72-2430
南信教育事務所生涯学習課	0265-76-6861	北安曇教育会	0261-22-0440
南信教育事務所飯田事務所	0265-53-0460	更埴教育会	026-272-0247
伊那市公民館	0265-78-3447	上高井教育会	026-245-0396
		中野・下高井教育会	0269-22-2817
教育関係団体 貸し出し数各 5 組		長野上水内教育会	026-226-2458
佐久教育会	0267-67-2043	飯水教育会	0269-62-2531
小県上田教育会	0268-23-1151	長野市視聴覚センター	026-228-0943
諏訪教育会	0266-52-0213	松本市教育会	0263-32-4751
上伊那教育会	0265-72-3416		

人権かるた 読み札一覧

あ	ありがとう みんな笑顔に なる言葉	小学1年生
い	いやがらせ されて気づいた 相手のいたみ	中学2年生
う	うれしいな ドアをおさえる あなたの手	小学6年生
え	笑顔はね みんなの心を つなぎます	小学6年生
お	お年寄り 今度はぼくが やさしくしたい	小学5年生
か	かざらずに 自分らしく 生きていく	中学1年生
き	教室の 一人ぼっちを なくそうよ	中学1年生
く	くじけそう 仲間といっしょに がんばれた	小学5年生
け	敬老に 孫から届く メッセージ	一般
こ	困ったら お互い様だよ 助け合い	中学1年生
さ	さあどうぞ ゆずりゆずられ ハッピーデー	小学5年生
し	白いつえ 教えてあげる 点字道	小学5年生
す	すぐそばに 助けてくれる 人がいる	中学2年生
せ	世界中 手をつないだら 平和の輪	小学5年生
そ	それいいね 人の意見も 大切に	中学3年生
た	大切に 自分の名前 一人だけ	小学4年生
ち	聴導犬 耳の代わりに がんばっている	中学3年生
つ	伝えよう 心あたたまる 感謝の気持ち	一般
て	手伝うよ 心がかよう 手が動く	一般
と	友だちと 並んで歩く 帰り道	小学5年生
な	仲間って 一生ものの 宝物	小学5年生
に	人間は やさしい心 持っている	小学5年生
ぬ	ぬかされても お先にどうぞ ゆずりあい	小学5年生
ね	ねえちょっと いじめなんかして 楽しいの？	小学5年生
の	野の花の 美しき姿 それぞれに	一般
は	話そうよ やさしい言葉で みな笑顔	一般
ひ	人はみな 言葉がちがえど 同じ人	中学3年生
ふ	ふと気づく 人のやさしさ 思いやり	高校2年生
へ	偏見を なくす努力が 社会の宝	一般
ほ	ほっとする やさしい言葉と きれいな言葉	一般
ま	負けないで 君の笑顔が 応援団	小学3年生
み	みんなとは ちがっていいよ あたりまえ	小学4年生
む	胸のうち 話して楽に なる心	小学4年生
め	メールよりも 会って伝える 感謝の気持ち	一般
も	もう一度 君のところへ ありがとう	小学4年生
や	やめようよ 勇気を出して 言ってみよう	小学3年生
ゆ	ゆずり合う 心がつくる 明るい社会	小学5年生
よ	よく話し いつも仲よし 家族の輪	小学4年生
ら	らんぼうな 言葉は自分も きずつける	小学2年生
り	理解しよう 人の心の いたみをね	小学4年生
る	ルールには ひとつひとつに 意味がある	中学生
れ	連絡を 取り合い家族は いつでもいっしょ	一般
ろ	論より実践 人権を守る	一般
わ	輪のように みんなの心 つなごうよ	小学6年生
を	人権を 守る決意を 語り合おう	一般
ん	うん いいよ うなづく君の あたたかさ	一般

ウハウハ

所要時間 25分

対象 小学校高学年以上

ねらい

- 少数派であること、多数派であることを体験する。
- 多数派である時には気づけなかった少数派の気持ちを理解し、公正な社会について考える。

準備

- ・「命令カード」（2種類）を参加者全員分用意する。
- ・「命令カード」には多数派カードの中に、まったく違う動作をするように指示された少数派カードが1割程度入るようにする。
- ・カードは、キリトリ線に沿って短冊形にする。（カードの中に「ウハウハ」「ンゴンゴ」「クスクス」「ヘラヘラ」「シラシラ」の5つの動作が書かれているように切っておく。）

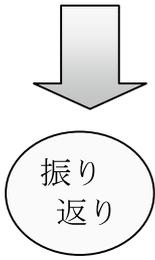
進め方

導入

展開

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）

- 1 必要に応じて、グループ分けをする。
大人数でも可能だが、お互いの表情を見ながら進めたいと思うときは、10人程度のグループで行うとよい。
- 2 命令カードを全員に配る。配る際に、自分のカードを他の人には見せないように伝える。
- 3 進行上の約束事を確認する。
発問：約束事は、次の3つです。」
「一つめです。これから、私がカードのある『ウハウハ』『ンゴンゴ』『クスクス』『ヘラヘラ』『シラシラ』という言葉に順に言っていきますので、みなさんは、カードに示されたとおりの動作をしてください。」
「二つめです。できるだけ大きな動作をお願いします。」
「三つめです。でも、どうしてもカードのとおり動作ができないと感じた場合は、無理に行わないで結構です。皆さんの動作を見ていることも立派な参加の方法です。構えないで気楽にやりましょう。」
- 4 活動する。
 - ① 『ウハウハ』の動作をする準備ができていることを参加者全員に確認し、指導者のかけ声で、一斉に動作をする。
 - ② 以下、『ンゴンゴ』～『シラシラ』まで、同時に行う。



5 学習の振り返りをする。

- ① 活動終了後に、少数者カードを引いて参加した人のおかげで、学習が成立したことを確認して、全員でお礼の拍手をする。
- ② 感想を発表し合うとともに、次の観点なども含めて振り返りをする。
 - ・人と違ってしまふことを、間違いだと思ってしまうような経験。
 - ・日常生活において、少数派になるのはどのような場面か。
 - ・少数派にとって、多数派の言動や態度がどう感じられるか。
 - ・多数派でいると気づけなかったり、平気でしてしまったりするようなこと。

留意点等

○命令カードの内容（動作）は、参加者の年齢や状況によって十分吟味し、場合によっては、内容を大きく変えることが必要である。少数派を誰にやってもらうかについても検討が必要である。子ども、保護者、教職員と一緒に学ぶ学習会において、少数派の役を大人が行う方法も考えられる。

○人は命令されて行うのであれば、非人間的な行動もしてしまう可能性が心理学の実験等で指摘されている。

振り返りの中で、多数派の中から「少数派に対して厳しい動作だったが、悩みつつも行った。」というような感想が出た場合は、それに関わって、同じような危うさが私たちの生活の中にも潜んでいることはないか（いじめ等）を考えることで、さらに学習を深めることも可能である。

引用・参考文献：「人権教育ファシリテーターハンドブック」

第3章 プログラムで活用できるアクティビティ30選

特定非営利法人 国際理解教育センター（ERIC）

〒114-0023

東京都北区滝野川 1-93-5 コスモ西巢鴨 105

TEL 03-5907-6064 FAX 03-5907-6095

ワークシート

「命令カード」

【少数派カード】

<p>ウハウハ 困って頭をか く。</p>	<p>ンゴンゴ 不思議に思っ て首をかしげる。</p>	<p>クスクス 困惑して引っ 込み思案に手を 引っ込める。</p>	<p>ヘラヘラ うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。</p>	<p>シラシラ 違う行動をし ている人を指し て笑う。</p>
--------------------------------------	--	--	--	--

【多数派カード】

ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。
ウハウハ うれしくてピ ョンピョンはね る。	ンゴンゴ 違う行動をし ている人を見つ けて指さす。	クスクス うれしくてニ コニコと隣の人 の手を握る。	ヘラヘラ 困惑して引ッ 込み思案に手を 引ッ込める。	シラシラ しゃがみこむ。

この線で切り取って短冊形にして使用します。

異文化への理解

所要時間 90分

対象 小学校高学年以上

ねらい

○世界の人々の中には様々な感じ方や考え方があることや、日本に住む外国から来た人達が抱える問題について考え合うことを通して、様々な立場の人とふれあい、助け合うことよさに気づく。

準備

- ・絵または絵の写真（内容は留意点に記載）
- ・各自色鉛筆、A4白紙
- ・啓発ビデオ「ソーテサワサワ～人間の価値はみな同じ～」
- 企画：長野県同和教育推進協議会 制作：信越放送（SBC）株式会社

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）

- 「色鉛筆を使って、次の6つのものの絵を描いてください。」
（技術的な優劣を見るものではないことを伝え、自分の思い通り描かせる。）
①1本の木 ②りんごの色 ③みかんの色
④太陽の色 ⑤虹の色の数 ⑥月の色
- 教師の示した絵（写真）と比べて感想を出し合う。
- DVD「ソーテサワサワ」を見る。
- 主人公の小林フィデアさんが、様々な体験をし、その時にできることを行動に移すことで、差別に立ち向かっていることや、フィデアさんを支え共に生きる人たちの存在に気づかせる。
- 「学習を通して気づいたこと、感じたことを発表しましょう。」

留意点等

○指示して描く絵について

指示	生徒が描くと予想される絵	教師が事前に用意しておく絵、または写真	備考
①1本の木	緑豊かな木	緑豊かとは限らない	
②りんごの色	赤	緑（フランス）	外国の絵本等が参考になる。
③みかんの色	オレンジ色	茶色も含む色（欧米）	
④太陽の色	赤	黄（欧米）	
⑤虹の色の数	7	5～6（欧米）	7（フランス）
⑥月の色	黄	白（欧米）	

○『「言葉がわからない」体験ゲーム何が起こった？（震災編）』（（財）滋賀県国際協会発行）を導入の学習で活用する方法もある。

子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）を学ぼう

所要時間 45分

対象 小学生以上

ねらい

○子どもの権利条約の条文カードを使ったランキングゲームを通して、様々な見方・考え方があることに気づくとともに、自分にも他の人にも大切な権利があることを理解する。

準備

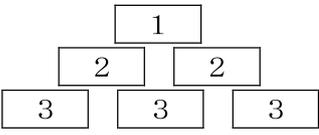
・子どもの権利条約カード（グループ用に1組） ・ノートまたはワークシート

進め方

導入

展開

振り返り

活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）	留意点
1 1つのグループが5、6人になるようにする。 子どもの権利条約カードを配布する。 2 世界の子どもの様子や、いじめ、虐待等についての担任の思いを話し、世界中の子ども達が持っている「子どもの権利」について学習することを確認する。	○児童生徒の実態、学習内容によって、権利条約カードA版（簡易版）またはB版を使用する。全ての条文を使わない方法も考えられる。
3 権利条約カードを、グループに1組ずつ配る。 4 グループごとに、条約カードを順番に読み上げてから、特に大切にしたい条文を6つ選び、ランキングを行う。 5 グループごとに、模造紙にはって、発表し合う。 ・ランキングの理由 ・グループの話し合いで迷ったところについて	○カードを1人1組配り、まず、自分でランキングを作らせ、自分の考えをしっかりと持たせてから、グループで話し合わせる方法もある。 
6 一人一人が活動を通して感じたことを、ノートやワークシートにまとめる。 7 活動を通して感じたことを発表する。	○様々な見方・考え方があり、それぞれに価値があることや、一人一人が大切な権利を持っていることを確認する。

留意点等

- 子どもの権利条約カードを使って様々な学習が考えられる。
 - ・1人1枚のカードを持ち、自分のカードと似ているカードを探してグループをつくり、それぞれのグループとの間に関係がないか考え合う。
 - ・世界の子どもの問題、いじめ、虐待等の新聞記事を導入に、権利条約カードから、それぞれの人権問題とつながる条文を探す。
 - ・「アニメ『めぐみ』（北朝鮮当局による拉致問題）の視聴とあわせ、めぐみさんが奪われた権利について考え合う。
 - ・子どもの権利条約について学習し、権利条約ビデオ作りをする。（『一緒にいこうよ』（長野県教育委員会）に実践例が紹介されている。）

「子どもの権利条約」カード

(A版)

日本ユニセフ協会作成「子どもの権利条約カードブック」より

1 18才までは子どもだよ。	2 どんないじめも差別も許せない！国や肌の色がちがっても、男も女も同じ人間。平等だ。	3 子どもにとって一番いいこと、一番の幸せをね！	4 国がしなきゃいけないことを果たしてね。	5 子どもの一番の幸せを考えてくれる親。
6 だれにでもある生きる権利。みんな生きたい！大きくなりたいたい！	7 生まれたらだれにでも名前や国籍がある。	8 世界中でたった一人の自分らしさを大切に！私は私！	9 父と母とくらしたい。はなればなれになっても会えるよ。	12 言いたいこと言わせて！自分の考えを言う権利があるんだ。
13 自由に自分を表現できる！でも人に迷惑をかけてはいけないよ。	14 思うこと、信じること、心は自由なんだ！	15 仲間どうして集まる権利があるよ。	16 知られたくないことある。秘密や名誉は守られる。	17 もっと知りたい！いろんなこと。情報を知る権利がある。でも有害な情報からは守られる。
18 父も母も子どもを育てる責任は同じ。	19 親は子どもを大事に育てて！痛いめ、ひどいめにあわさないで。	22 戦争や難民になって自分の国にいられなくなった子どもは守られる。	23 「障害」のある子どももみんな仲間として共に生きていこう。社会に出ていけるよ。	24 病気になったら元気になるまでキチンとみてね。健康に生きる権利があるよ。
26 苦しい生活でも安心できるように、国の助けを！社会保しよを受けられるよ。	27 人間らしい生活、くらしやすい生活を！	28 みんな学びたい！学校で楽しく勉強したい！	29 一人一人が大切にされ伸ばされる教育を！	30 いろんな文化を認め、ちがいが豊かさになるように。
31 もっと遊びたい、休みたい！スポーツや芸術ができるよ。	32 子どもの成長をさまたげるような仕事はさせられない。	34 性的いやがらせや、売春の相手にさせないで。	36 子どもにとってよくないことはすべては禁止！	38 戦争にまきこまれないで！

「子どもの権利条約」カード

(B版)

日本ユニセフ協会作成「子どもの権利条約カードブック」より

<p>第1条 子どもの定義 18歳になっていない人を子どもとします。</p>	<p>第2条 差別の禁止 すべての子どもは、みんな平等にこの条約にある権利をもっています。子どもは、国のちがいや、男か女か、どのようなことばを使うか、どんな宗教を信じているか、どんな意見をもっているか、心やからだに障害があるかないか、お金持ちであるかないか、などによって差別されません。</p>	<p>第3条 子どもにとってもっともよいことを 子どもに関係のあることを行うときには、子どもにもっともよいことは何かを第一に考えなければなりません。</p>
<p>第4条 国の義務 国は、この条約に書かれた権利を守るために、できるかぎりのことをしなければなりません。</p>	<p>第5条 親の指導を尊重 親(保護者)は、子どもの心やからだの発達に応じて、適切な指導をしなければなりません。国は、親の指導する権利を大切にしなければなりません。</p>	<p>第6条 生きる権利・育つ権利 すべての子どもは、生きる権利をもっています。国はその権利を守るために、できるかぎりのことをしなければなりません。</p>
<p>第7条 名前・国籍をもつ権利 子どもは、生まれたらすぐに登録(出生届など)されなければなりません。子どもは、名前や国籍をもち、親を知り、親に育ててもらふ権利をもっています。</p>	<p>第8条 名前・国籍・家族関係を守る 国は、子どもの名前や国籍、家族の関係がむやみにうばわれることのないように守らなくてはなりません。もし、これがうばわれたときには、国はすぐにそれを元どおりにしなければなりません。</p>	<p>第9条 親と引き離されない権利 子どもは、親といっしょにくらす権利をもっています。ただし、それが子どもにとってよくない場合は、はなれてくらすことも認められます。はなれてくらすときにも、会ったり連絡したりすることができます。</p>
<p>第10条 他の国の親と会える権利 国は、はなればなれになっている家族がお互いが会いたい、もう一度いっしょにくらしたい、と思うときには、できるだけ早く国を出たり入ったりすることができるように扱わなければなりません。親がちがう国に住んでいても、子どもはいつでも親と連絡をとることができます。</p>	<p>第11条 よその国に連れさられない権利 国は、子どもがむりやり国の外へ連れ出されたり、自分の国にもどれなくなったりしないようにしなければなりません。</p>	<p>第12条 意見を表す権利 子どもは、自分に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利をもっています。その意見は、子どもの発達に応じて、じゅうぶん考慮されなければなりません。</p>

<p>第 13 条 表現の自由 子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを伝える権利、知る権利をもっています。ただし、ほかの人に迷惑をかけてはなりません。</p>	<p>第 14 条 思想・良心・信条の自由 子どもは、思想・良心および宗教の自由についての権利を尊重されます。親(保護者)は、このことについて、子どもの発達に応じた指導をする権利および義務をもっています。</p>	<p>第 15 条 結社・集会の自由 子どもは、ほかの人びとと自由に集まって会をつくったり、参加したりすることができます。ただし、安全を守り、きまりに反しないなど、ほかの人に迷惑をかけてはなりません。</p>
<p>第 16 条 プライバシー・名誉は守られる 子どもは、自分のこと、家族のくらし、住んでいるところ、電話や手紙など、人に知られたいくときは、それを守ることができます。また、他人からほこりを傷つけられない権利があります。</p>	<p>第 17 条 適切な情報の入手 子どもは、自分の成長に役立つ多くの情報を手に入れることができます。国は、マスメディア(本・新聞・テレビなど)が、子どものためになる情報を多く提供するようにすすめ、子どもによくない情報から子どもを守らなければなりません。</p>	<p>第 18 条 子どもの養育はまず親に責任 子どもを育てる責任は、まずその父母にあります。国はその手助けをします。</p>
<p>第 19 条 虐待・放任からの保護 親(保護者)が子どもを育てている間、どんなかたちであれ、子どもが暴力をふるわれたり、むごい扱いなどを受けたりすることがないように、国は子どもを守らなければなりません。</p>	<p>第 20 条 家庭を奪われた子どもの保護 子どもは、家族といっしょにくらせなくなったり、家族からはなれた方がその子どもにとってよいときには、かわりの保護者や家庭を用意してもらおうなど、国から守ってもらうことができます。</p>	<p>第 21 条 養子縁組 子どもを養子にする場合には、その子どもにとって、もっともよいことを考え、その子どもや新しい父母のことをしっかり調べたうえで、国や公の機関だけがそれを認めることができます。</p>
<p>第 22 条 難民の子ども ちがう宗教を信じているため、自分の国の政府と違う考え方をしているため、また、戦争や災害がおこったために、よその国にのがれた子ども(難民の子ども)は、その国で守られ、援助を受けることができます。</p>	<p>第 23 条 障害のある子ども 心やからだに障害があっても、その子どもの個性やほこりが傷つけられてはなりません。国は障害のある子どもも充実してらせるように、教育やトレーニング、保健サービスなどが受けられるようにしなければなりません。</p>	<p>第 24 条 健康・医療への権利 国は、子どもがいつも健康でいられるように、できるかぎりのことをしなければなりません。子どもは、病気になったときや、けがをしたときには、治療を受けることができます。</p>
<p>第 25 条 病院などの施設に入っている子ども 子どもは、心やからだの健康をとりもどすために病院などに入っているときに、その治療やそこでの扱いがその子どもにとってよいものであるかどうかを定期的に調べてもらうことができます。</p>	<p>第 26 条 社会保障を受ける権利 子どもやその家族が生活していくのにじゅうぶんなお金がないときには、国がお金をはらうなどして、くらしを手助けしなければなりません。</p>	<p>第 27 条 生活水準の確保 子どもは、心やからだのすこやかな成長に必要な生活を送る権利をもっています。親(保護者)はそのための第一の責任者ですが、親の力だけで子どものくらしが守れないときは、国も協力します。</p>

<p>第 28 条 教育を受ける権利 子どもには教育を受ける権利があります。国はすべての子どもが小学校に行けるようにしなければなりません。さらに上の学校に進みたいときには、みんなにそのチャンスが与えられなければなりません。学校のきまりは、人はだれでも人間として大切にされるといふ考え方からはずれるものであってはなりません。</p>	<p>第 29 条 教育の目的 教育は、子どもが自分のもっているよいところをどんだのばしていくためのものです。教育によって、子どもが自分も他の人もみんな同じように大切にされるということや、みんなとなかよくすること、みんなの生きている地球の自然の大切さなどを学べるようにしなければなりません。</p>	<p>第 30 条 少数民族先住民の子ども 少数民族の子どもや、もともとその土地に住んでいる人びとの子どもが、その民族の文化や宗教、ことばをもつ権利を、大切にしなければなりません。</p>
<p>第 31 条 休み、遊ぶ権利 子どもは、休んだり、遊んだり、文化・芸術活動に参加する権利があります。</p>	<p>第 32 条 経済的搾取・有害な労働からの保護 子どもは、むりやり働かされたり、そのために教育を受けられなくなったり、心やからだによくない仕事をさせられたりしないように守られる権利があります。</p>	<p>第 33 条 麻薬・覚せい剤などからの保護 国は、子どもが麻薬や覚せい剤などを売ったり買ったり、使ったりすることにまきこまれないように守られなければなりません。</p>
<p>第 34 条 性的搾取からの保護 国は、子どもがポルノや売買春などに利用されたり、性的な暴力を受けたりすることのないように守らなければなりません。</p>	<p>第 35 条 ゆうかい・売買からの保護 国は、子どもがゆうかいされたり、売り買いされたりすることのないように守らなければなりません。</p>	<p>第 36 条 あらゆる搾取からの保護 国は、どんなかたちでも、子どもの幸せをうばって利益を得ることから子どもを守らなければなりません。</p>
<p>第 37 条 ごうもん・死刑の禁止 どんな子どもに対しても、ごうもんやむごい扱いをしてはなりません。また、子どもを死刑にしたり、死ぬまで刑務所に入れたりすることは許されません。もし、罪を犯してたいほされても、人間らしく年れいにあつた扱いを受ける権利があります。</p>	<p>第 38 条 戦争からの保護 国は、15歳にならない子どもを兵士として戦場に連れていってはなりません。また、戦争にまきこまれた子どもを守るために、できることはすべてしなければなりません。</p>	<p>第 39 条 犠牲になった子どもを守る 子どもがほうっておかれたり、むごいうちを受けたり、戦争にまきこまれたりしたら、国はそういう子どもの心やからだの傷をなおし、社会にもどれるようにしなければなりません。</p>
<p>第 40 条 子どもに関する司法 国は、罪を犯したとされた子どもが、人間の大切さを学び、社会にもどったとき自分自身の役割をしっかりと果たせるようになることを考えて、扱われなければなりません。</p>	<p>※公益財団法人日本ユニセフ協会のホームページからは、下記の内容をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利条約（日本ユニセフ協会抄訳版） ・子どもの権利条約のアニメーション ・子どもの権利条約全文 <p>http://www.unicef.or.jp/crc/about/index.html</p>	

「そんなこといってもなおせないよ」(小学校 道徳)

道徳学習指導案(人権教育)

1 主題名 「友だちの気持ちを考える」・2年(1時間扱い)

2-(3) 友だちと仲良くし、助け合う。

2 資料名 「そんなこといってもなおせないよ」(あけぼの 小学校低学年向け)

3 主題設定の理由

この時期の子どもたちは、友だちの立場を理解したり、自分とは異なる考えを受け入れたりすることは、まだ難しいことが多い。しかし、学級生活を共にしながら、仲よく遊んだり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を重ねることで、友だちのよさを強く感じられるようになる。この段階では、身近にいる友だちと仲良く活動し、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。

2年生になり、友だち同士声をかけ合って遊んだり、一人でいる子、困ったり泣いていたりする子がいると、声をかけたり、教師に知らせて何とかしようしたりする姿が見られるようになってきた。しかし、身体面でハンディを感じている子の気持ちを深く考えずに、からかうような言い方をする姿も見られる。身体面でハンディを感じるような体験が自分にはない場合は、なかなか相手の気持ちを考えるまでには至らないのではないかと推察される。相手がどのような思いでいるのか、なぜそのような思いになるのか等、自分のこととして感じられる支援をすることで、子どもたちに、相手の悲しさや心の痛みを思いやることができる心を育てたいと願い、本主題を設定した。

資料「そんなこといってもなおせないよ」は、目が細いと言われて傷ついた「たくろうさん」の姿を取り上げている。子どもたちが、身体面でハンディを感じている友だちを悲しませたことと似たような場面を扱った資料である。「たくろうさん」は、なぜ悲しい気持ちになるのか等「たくろうさん」の思いを丁寧に考えさせたり、事前に自分の体験を想起する指導をして授業に臨んだりすることを通して、身体面での特徴を言われた方は、それが直せないものであるだけに、深く傷つけてしまうことがあることに気づくことができるようにしたい。また、傷ついた心は、友だちのやさしい声がけや支えて立ち直ることができるし、人の気持ちを傷つけたことに気づかない友だちに対しては、きちんと自分の気持ちを伝えていくことの大切さにも気づかせたい。

4 人権教育とのかかわり

- 相手の気持ちを想像することができる。(技能)
- 身体面の特徴は、人によって感じ方が違うことに気づける。(知識)
- 自分の気持ちを相手にしっかり伝えることの大切さに気づく。(価値・態度)

5 本時案

(1) 主眼

日頃、あまり深く考えずに、友だちの身体面での特徴や気にしていることを言うことがある子どもたちが、資料「そんなこと いわれても なおせないよ」を読み、たくろうさんの悲しい気持ちを考えることを通して、身体面での特徴を言うことは相手の気持ちを傷つけることにつながることに気づき、相手の気持ちを考えた言動をとろうとしていくことができる。

(2) 人権教育の視点

- ・「たくろうさん」の次の日の行動をとらえさせることにより、傷つき、深く悲しんでいる気持ちに気づかせる。

(3) 指導上の留意点

- ・事前に「友だちに言われていやだったこと」のアンケートを取り、言われていやだったことの内容やそのときの気持ちを把握しておく。

(4) 展開

◇人権教育に関わる配慮点

	学習活動	発問・予想される児童の反応	教師の指導 評価	時	備考
導入	1 資料の絵を見て、思ったことを発表する。	○この絵を見て、気づいたことを出してみましょう。 ・悲しい気持ち ・いやな気持ち ・泣きたいような気持ち ・困っているのだと思う。 ・何か困って悩んでいる。	・挿絵1のたくろうさんの表情に注目させ、どんな気持ちで入るのか想像させる。 ◇自分が感じたことを自由に発表させ、お互いに聞き合う姿を認め励ます声かけをする。	5	挿絵1
展開	2 資料を読んで「たくろうさん」や「けんたさん」の行動や気持ちについて考える。 (1) たくろうさんが泣き出してしまったわけを考える。 (2)「みんなは知らないからいいにいいにいい」と言われたときのたくろうさんの気持ちを考える。	学習問題 たくろうさんは、どんな気持ちなのかな。 ○たくろうさんが泣き出してしまったとき、どんな気持ちだったと思いますか。 ・友だちみんなが言ったからいやだったんだ。 ・気にしていたことを笑われたら悲しくなったんだと思う。 ・みんなにいじめられていると思った。 ・また、今日も言われると思うから。 ・自分でも気にしていたことだったから、本当にどうしようもない気持ちになった。 ・自分で気にしていることでも、なおせないことだから悲しくなった。 ○「みんなは知らないからいいにいい」とけんたさんに言われたとき、たくろうさんはどんなことを思ったでしょう。 ・けんたさんに声をかけてもらってぼくの気持ちをわかってもらってよかった。 ・みんなはぼくのことをいじわるしたんじゃないかかもしれない。 ・ぼくがこんなに悲しくいやな気持ちになったことをみんなにもわかってもらいたい。	・資料を読み、登場人物やその行動を確認し、たくろうさんの気持ちを考えさせる。 ◇たくろうさんの気持ちがわかるかどうか問い、「目がほそい」と言われたことがどれほど悲しいことなのか考えさせていく。 ・周りにいた子の様子(挿絵1)にも目を向けさせ、知らずに人のいやなことをしてしまうことがあることに気づかせる。 ・自分の経験を思い起こさせながら発表させる。 ◇体のことは言われてもなおせない、本人が気にしていることを言われると深く傷つくことがあることを確認する。 ◇とても悲しい思いをして傷ついたたくろうさんが、最後には、ドッジボールをしたいという気持ちに変わっていることに気づかせ、なぜだろうという気持ちを持たせる。 ・けんたくんの話している言葉の中味に目を向けさせる。	30	資料 挿絵2 挿絵3

お わ り	3 今日の授業 をしてみても思っ たことやこれから こうしていき たいということ を発表する。	○今日の授業をして、思ったこ とを発表してください。 ・人がいやがることは言っ てはいけないと思った。 ・身体の話は、いわれてもな おせないし、言われるとすご くいやだと思った。 ・悲しい気持ちでいる友だち には、声をかけたい。 ・自分も人にいやなことを言 ったことがあったので、直し たい。	・ どうしてそう思ったかなど、 学習したことを振り返らせ ながら、語らせる。 ・ 今までの自分の姿を振り返 っているものやこれからの意 欲が表れているものを大切 に取り上げるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">体のこと等直せないこ とを言うことは、深く傷 つける場合があることに 気づき、相手の気持ちを 考えるようにしたいとい う気持ちをもてたか。</div>	10
-------------	--	---	--	----

6 教材研究

(1) 資料分析と発問の計画

たくろうさん	ことえさん、けんたさん、ともだち	価値	発問
<ul style="list-style-type: none"> ・にげ出すようにきょうしつにかえりました。 ・つぎの日の休みじかん、ひとりですわっている。 ・下をむいたままで、へんじをしません。 ・きゅうにわーとなき出す。 ・「だってみんながぼくの目をほそいって言うから…。そんなこといわれても、なおせないよ。」 ・ゆうきがわいてきた。 ・「そうしてみる。みんなにはなしをしていっしょにドッジボールをしたいな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たくちゃんて、目がほそいね。」 ・「わらうと、もっとほそくなるね。」 ・けんたさんははっとしていいました。 ・「ぼくも、『まゆげがふとい』っていわれていやだったことがあったのに、たくちゃんのことをわらっちゃった。…みんなはしらないから、いいにいこうよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気がないたくろうさんを心配して声をかけるけんたさん。 ・自分も体のことを言われていやだった体験と重ねて考えるけんたさん。 ・声をかけてもらうことにより、元気を取り戻したたくろうさん。 	<p>○たくろうさんが泣き出してしまったのはなぜですか。</p> <p>○たくろうさんがまたドッジボールをしたいと思ったのは、どうしてですか。</p>

(2) ねらいの達成に寄せた展開の構想

<ねらい>

・体についてのことをいうことは、人を傷つけることがあることがわかる。

・悲しんでいるともだちに声をかけることの大切さを知る。

<資料の中で最も考えさせたい場面>

・たくろうさんが泣き出してしまった場面。
(傷つけるつもりではなかったのに友だちを悲しませてしまった言葉が原因)

<つきたい力>

体のこと等直せないことを言うことは、深く傷つける場合があることに気づき、相手の気持ちを考えるようにしたいという気持ちをもてる。

(3) 黒板に掲示する挿絵

挿絵 1



挿絵 2



挿絵 3



そんなこと いわれても なおせないよ

たくろうさんは、たいいくかんで たのしく ドッジボールをして あそんで いました。すると ことえさんが、

「たくちゃんて、目が ほそいね。」

と、きゅうに いい出しました。そばにいた ともだちも、

「そうだね。」

「わらうと、もっと ほそく なるね。」

といいました。たくろうさんは、にげ出すように、きょうしつに かえりました。

つぎの 日の 休みじかん、ともだちの けんたさんが、ひとりで すわっている たくろうさんに こえを かけました。

「たくちゃん たいいくかんで ドッジボール やろうよ。」

でも、たくろうさんは、下をむいたままで へんじを しません。

「どうしたの。なにか あったの？」

けんたさんが いうと たくろうさんは、きゅうに わーっと なき出しました。

「だって、みんなが ぼくの 目を ほそいって いうから…。そんなこと いわれても、なおせないよ」

けんたさんは、はっと して いいました。

「ぼくも、『まゆげが ふとい』って いわれて いやだった ことがあったのに、たくちゃんの ことを わらっちゃった。ごめんね。目のことを いわれて いやだった ことを みんなは しらないから、いいにいこうよ。」

たくろうさんは、ゆうきが わいて きました。

「うん、そうしてみる。みんなに はなしを して いっしょに ドッジボールしたいな。」

たくろうさんは、けんたさんと いっしょに きょうしつを とび出して いました。

『あけぼの 低学年用』（長野県同和教育推進協議会）より

「あなたならどうする？」（小学校 道徳）

道徳学習指導案（人権教育）

1 主題名 「友だちの気持ちを理解し、助け合う」・4年（1時間扱い）
2－（3）友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。

2 資料名 「あなたならどうする」（『あけぼの 小学校中学年』）

3 主題設定の理由

この時期の子どもたちには、相手の立場に立って考えさせることの大切さを自覚させながら、集団での共同生活や仲間関係の在り方などについて指導することが大切である。

4月に学級編制をして2ヶ月あまり経った。新しいクラスになったばかりの時は、お互いの様子をうかがうようにしており、友達同士のトラブルも少なかったが、だんだん慣れてきてからは、それぞれの個性が良さとして発揮されるようになってきた反面、自分だけの思いを通そうとする姿も見られるようになってきた。朝や帰りの会では、いろいろなトラブルが出され、話し合われるようになった。しかし、相手に対してどのような態度でどのように話したらよいか、よりよい方向の結論が出せないこともある。そこで、相手の立場を考えながら、自分の思いを伝えることが大切であることに気づいていけることを願い、本主題を設定した。

資料「あなたならどうする？」は、友達に厳しい言い方をする友達を仲間に入れて、「ちがうあそびをしよう」と言われたときに、自分ならどんな言い方をすればいいのか、ロールプレイをしながら考える資料である。実際にロールプレイをしながら、どんなふうに相手に接していくのが自分にとっても相手にとってもいいのかを考えることで、似たような経験をしたときに、一步でも自分の願う言動が取れることができるようになってほしい。

4 人権教育とのかかわり

○相手の立場を想像しながら自分の思いを伝えていく体験をし、その大切さを実感することができる。
(価値・態度、技能)

5 本時案

(1) 主眼

友達に厳しい言い方をする友達を仲間に入れて、「ちがうあそびをしよう」と言われたときに、どんな言い方をすればいいのか考え合う場面で、ロールプレイや話し合いを通して、相手の立場を想像しながら自分の思いを伝えていくことが大切であることに気づき、実際に似たような経験をした時に、どのような行動をしたらよいか見通しをもつことができる。

(2) 人権教育の視点

・具体的な場面を設定し、実際にロールプレイをしたり、感じたことや考えたことを語り合ったりすることを通して、それぞれの立場（Aさん、Bさん、Cさん）に心を向けながら、相手にとっても自分にとっても心地よい言動のあり方とその大切さに気づくことができるようにする。

(3) 指導上の留意点

・どんな場面でだれの気持ちを考えるのかよくわかるように、絵を参考に全体の場で確認をする。
・それぞれの答え方をしたときの気持ちを発表し合うことを大切に、どの言い方がよかったかを考えるようにする。

(4) 展開

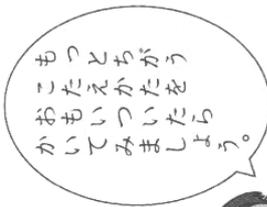
◇人権教育に関わる配慮点

	学習活動	発問・予想される児童の反応	教師の指導 評価	時	備考
導入	1 ドッジボールについて、自分が思っていることを発表する。	○ドッジボールと聞いて、どんなことを思い浮かべますか。 ・ドッジボールは大好き。 ・みんなでやると楽しい。 ・勝つとうれしい。	◇本時の資料への関心を高めるために、ドッジボールへの子どもたちの思いを聞き、受け止める。	5	
展開	2 資料を見て、考え合う。	○紙芝居を見ながら、話の内容を理解する。 ○どんな人が出てくるでしょう。	・資料「あなたならどうする」の紙芝居と資料の文章を読ませる。	35	紙芝居

		<p>・Aさん、Bさん、Cさんの3人が出てくる。</p> <p>A: 強い口調で、「おまえのせいでまたんだぞ!」とアウトになった子をせめている。</p> <p>B: Aさんの言葉を聞いて、「明日は、Aさんとちがうあそびをしよう。」と言う。</p> <p>C: Aさんの様子を見て、Bさんに言われたことを考えている。</p>	<p>・登場人物がアルファベットのたため、どの子がどういうことをしているのか、確認する。</p>		
	<p>学習問題 「ちがうあそびをしよう」と言われたとき、どんな言い方をすればいいのかな。</p>	<p>○自分がCさんだったら、どんな返事をするか考える。</p> <p>A: うーん、どうしよう。Bさんがそういうなら…。</p> <p>I: そうだね。そうしよう。Aさんとは遊ばないようにしよう。</p> <p>U: そんなことはやめようよ。Aさんに話してみようよ。</p> <p>○グループでロールプレイをする。役割を決めて、演技をする。 5人の班→B、B、Cア、Cイ、Cウ 4人の班→B、Cア、Cイ、Cウ</p> <p>○代表のグループが、全体の前でロールプレイをする。</p> <p>○それぞれの言い方について、どう思ったのか発表し合う。</p> <p>A: 迷っている。困っている。</p> <p>I: 仲間はずしをしている。ちゃんとAさんと話したほうがいい。</p> <p>U: やさしい。ちゃんと解決ようとしている。Aさんもいけないけれど、Aさんを仲間はずしにしてはいけない。</p> <p>○もっとちがう答え方があるか考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹き出しに自分の考えた返事を書く。 ・自分の考えを発表する。(教師がBさんになって、ロールプレイのようにして発表する。) <p><input type="checkbox"/>だめだよ。それでは、Aさんがかわいそうな思いをしてしまう。</p> <p><input type="checkbox"/>Aさんを仲間はずしにしないで、ちゃんと注意をしよう。</p>	<p>○自分の考えを学習カードに記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分なら、どんな返事をするか、考えることができたか。</p> </div> <p>・友達が演技をしているところが見れるよう4～5人のグループにする。</p> <p>◇グループの友達と協力しながら実施できるよう声がける。</p> <p>・わかりやすく演技していた班に、前に出て発表してもらおう。</p> <p>◇皆の前で発表できたことを認める。</p> <p>・アから順番にどう思ったか発表させる。</p> <p>◇それぞれの発表を、なぜそう考えたのか問い返し、考えのよさを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんな返事のしかたがよいか、考えることができたか。</p> </div>	<p>学習カード</p>	
<p>おわり</p>	<p>3 今日の学習の振り返りをする。</p>	<p>○学習を振り返って、感想を書いて、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに決めつけしないで、しっかり話し合っ、自分にも相手にもいい方法を考えたい。 	<p>◇これからの生活でも、相手のことを考えながら、自分の気持ちを伝えられると、気持ちがいいし、みんなが仲良くなっていけそうなことを確認する。</p>	<p>5</p>	

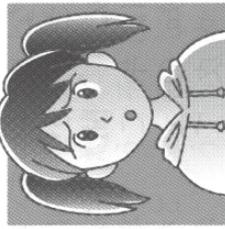
ロールプレイ「あなたならどうするかな?」

Cさんは、たくさんの友だちといっしょにドッジボールがでる休み時間を楽しみにしています。

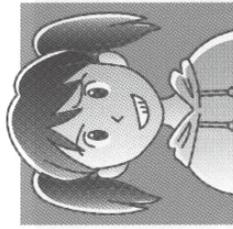


あなたがCさんだったら
どんなへんじをしますか。

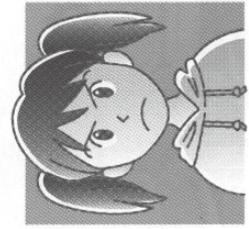
ア



イ



ウ



.....

.....

.....

.....

道徳の授業から～絵本『わたしのいもうと』を通して～

Point: 自分の中には、いじめをしてしまう心も、いじめをなくそうとする心もあるんだ。

1 取組のねらい

いじめに対する指導は、当事者などに対して個別に行うことも多いが、やはり学級全体に対して、授業を通して行うことを忘れてはならない。

全学年でクラス替えがあり、4月当初から開かれた学級づくりを目指してきた。特によりよい人間関係を築くことをねらいとした道徳の資料を工夫したり、体験的な学習も積極的に取り入れたりしてきた。しかしながら、友達に対する悪口や暴言があったり、ある友達を避けたりするという姿を見聞きすることがあった。さらに生活実態アンケートからも学級の中にはいじめられて悲しい思いをしている生徒がいることも浮き彫りになってきた。

生徒が、「これってわたしたちの中にもあることだ」とか「これってわたしたちの問題だ」と自分の問題として受け止め、同時に、憤りからいじめをなくそうとする姿になるような力のある教材に出会わせたいと願い、『わたしのいもうと』という絵本との出会いを考えた。

2 取組の内容

授業記録から

活 動 内 容	・ 生 徒 の 姿 / ○ 教 師 の 姿
<p>【第1時】</p> <p>1 教師が「わたしのいもうと」の絵本で挿絵を示しながら読み聞かせをする。</p> <p>2 感じたことを言葉で表現する。 自己を見返す</p> <p>3 感想について語る。</p> <p>4 「天国のいもうとへ」と題した手紙を書く。</p>	<p>①「ともに感じあいたい絵本があります。」 『わたしのいもうと』 知っている人はいますか。 ・ 1/3くらいの生徒が知っていると挙手。</p> <p>②挿絵を見せながらいねいに読み聞かせをした。 ・ しっとりとした雰囲気の中で、絵本に注目する生徒、下を向きながら教師の話に聴き入る生徒など、それぞれの向きあいで、いつも以上にこの絵本に引き込まれていった。</p> <p>③「今心に感じていることを言葉で表現してみてください。1度か2度読んだことのある人も今の感想を綴ってみよう。」 ・ 「これって実話ですか。」とつぶやく生徒（実話をもとにしている） ・ 「これってわたしたちの中にもある」と気づき、綴っていく生徒もいた。</p> <p>④なかなか感想を記入できないでいる生徒も見られたので、「今何考えているの?」「この部分の言葉がいいね」「以前に読んだときとどう?」などと声がけして、教材と向きあわせてみた。 ・ 全員が集中して感想を書き始めた。</p> <p>⑤「感想を語ってみよう」 A生：前読んでもらったときは小学生だったので、あんまり覚えてはいないけど、ただいじめは嫌だなあとしか思わなかったと思う。今回読んでもらったら、なんか心にジーンときた。いじめられている人は一生心に傷をかかえてしまうんだ。すごくせつなくてかわいそう。 B生：深くのめり込んで読めた。この本を読んで感じたことは、(主人公)</p>

	<p>がずっと背中を見せていて、顔は描いてなかったこと。だから悲しい絵本なんだろう。</p> <p>⑥「絵本の最後のページにあったのは、いもうとから同級生への手紙です。自分たちは同級生になったつもりで手紙を書いてほしいと思います。」</p> <p>この資料を、自分だったらと自分に引き寄せることを目的に、「天国のいもうとへ」と題した手紙の用紙を用意し、配布した。</p>
<p>【第2時】</p> <p>5 自分たちの身のまわりの問題について考える。</p>	<p>⑦「前時書いた手紙をグループで確認しあってみよう」</p> <p>C生：「あなたのことは、けっして忘れてませんよ。」</p> <p>D生：「あのときに戻りたい。そして、助けてあげたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、そのとき、何もできなかった自分を反省したり、戻って助けたいと強い決意をしたりする手紙を綴った。 <p>⑧「手紙に書いたことって、現実にできそうですか。」</p> <p>「『これってわたしたちの中にもある。』と感じてくれた人もいます。そう感じる部分はどこですか。」などとつなげてみた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意できない部分。わたしもまわりに注意するとかできないと思うけれど、いじめられている人のそばに居て、話を聴くことならできるかもしれない。

【感想の中から】

「わたしのいもうと」は、小学校4年生の時に担任の先生に読んでもらった本だったけれども、その時は、「いじめはよくない」「悪口はいけない」としか考えなかった。しかし、今回2度目の読み聞かせをしてもらったら、前回と少しちがう感想をもつことができました。それは、「人を忘れてはいけない」「いじめた人はいじめをすぐ忘れる。いじめられた人はいじめを忘れない」ということです。「人を忘れた」ということは、忘れられた人のことを全面的に否定されているという、最もひどい行いであると思う。

【資料】 『わたしのいもうと』 松谷みよ子／文 味戸ケイコ／絵 （偕成社）

なにげないいじめによって傷つき、登校もしなくなった私の妹は心を閉ざしたまま。

向こうをむいて、ふりむいてくれませんか。妹は体中につねられた跡があった。

妹をいじめた同級生たちは、そんなことなど忘れて中学生になり、高校生になっていきました。

いじめられた妹は、笑うことも無く部屋で鶴を折る。

お母さんは一生懸命に妹を救おうとするが……

妹は、楽しいことも体験できずに短い命を終える。

3 取組についての評価等

○この絵本そのものに生徒を深く入り込ませていく力があるので、所感でもっと自己と対話しながら深く綴っていきたいと感じていた生徒も多くいた。集めた感想はどれも、1ページ近く書き込まれていた。しかしまだまだ途中の生徒も大勢いたので、自分のペースで自己と向きあう時間をもっと確保してあげることで、もっと自分の（自分たちの）問題として引き寄せていくことができるのではないかと考えた。

○過去に扱った資料をもう一度扱うことのよさ。自分の問題にどのようにつなげていくか。など、教材研究や工夫によって、それぞれのねらいにもっと近づける資料でもあったと感じた。

（『集まってひとつの花 生徒指導・人権教育取組事例集～いじめのない集団づくりのために～』（長野県教育委員会）より）

赤ちゃん交流会（小学校 総合的な学習の時間）

1 題材名 「赤ちゃん和・話・輪！ みんながハッピー交流」（5年）

2 題材設定の理由

核家族化や少子化、地域のつながりの希薄化等、家族のあり方や地域の結びつきの変化とともに、子どもたちを取り巻く環境も変化している。人との関わり方がうまくいかない、周りの人や公共のものに寄せる気持ちが薄いという子どもたちの姿は少なくない。また、思春期にさしかかり、時に、一面的で独断的な見方や考え方をする傾向になりやすく、相手を批判したり、自分の価値判断に固執しがちになったりする面も見られる。

4月にクラス替えを行い、子どもたちは新たな人間関係を構築してきており、集団リレーなどの取組を通して、精神的にも成長し、集団としての高まりも出てきた。しかし、個々の子の様子を見ると、きつい言葉で相手をやり込めてしまう自分自身の姿を振り返ることができない子、相手の話をしっかり聞くことが苦手なために仲間の中でうまく動けない子、相手の話はよく聞けるが自分の思いを伝えられない子等々、コミュニケーションの力をもっとつけていく必要がある子どもたちが多いと感じている。

自分たちより小さい、ことに言葉のやりとりができない赤ちゃんに関わることは、自分から心を開いて、本気で向き合う必要感を生じさせる。自分では赤ちゃんにとってよいと思ってやってみても泣かれることもあり、相手に寄り添うこと、思いやることとはどういうことか真剣に考える機会を与えられる。また、赤ちゃんからは、否定的・批判的な言葉は返ってこないもので、伝えることが苦手な子どもたちも、安心して自分の考えや気持ちを伝えることができるだろう。さらに、赤ちゃんのお母さんお父さん方から話を聴くことで、自分も大事に育てられたことを実感し、家族への感謝の気持ちを持ち、命を大切にすることとはどういうことか考えることができるだろう。

赤ちゃんとお母さんやお父さんに関わる体験を通し、赤ちゃんの成長や命の尊さを実感しながら、相手を大切に思う気持ちを育んでほしい。また、自らの成長を振り返り、命の尊さ、親への感謝を実感し、自分や友だちのよさを再発見することを通して、よりよい人間関係づくりのために必要な資質を身につけてほしい。そして、相手に関心をもつ、相手のことを分かろうとしてよく見る、相手の気持ちを分かろうとして聴く等のコミュニケーションの力を、これからの生活に進んで生かしてほしいと願い、本題材を設定した。

3 題材目標

- 赤ちゃんとお母さんやお父さんの家族に積極的に関わろうとする。 【問題解決力】
- 赤ちゃんとお母さんやお父さんの家族との関わり体験を通して、人への思いやりや人の命の大切さに気づき、表現する。 【問題解決力・表現力】
- 赤ちゃんとお母さんやお父さんの家族を思いやる聴き方・話し方・関わり方ができる。 【共生力】
- 人と人々が理解し合うために必要な基本的なマナーや行動、聴き方、話し方ができる。 【問題解決力・共生力】

4 題材の評価規準

	A 問題解決力	B 表現力	C 共生力		
観点	問題設定力・追求を振り返り、深めていく力	まとめる力・発表する力	コミュニケーションの力	自己を意識する力	他を尊重する力
評価基準	①赤ちゃんや赤ちゃんの家族と関わる中で、疑問や課題をもったり、赤ちゃんのお母さん、お父さんに自分が知りたいことを質問したりする。 ②課題を解決するために考えたいろいろな方法の中から、自分にあったものを選び、積極的に関わる。 ③自分の活動を振り返り、交流への願いをふくらめます。	①赤ちゃんや赤ちゃんの家族との関わりを通して、気づいたことや感じたこと等を学習カードにまとめる。	①赤ちゃんたちと楽しい時間を過ごす上での、大切なマナーや行動を知り、心がけようとしている。 ②赤ちゃんの家族や友だちの話を聴き、自分の思いを伝えながら、赤ちゃんの家族との関わりを深めていこうとする。 ③関わり体験を振り返り、思いを伝え合う。	①赤ちゃんとふれあう中で、命の尊さに気づく。 ②赤ちゃんやお母さん、お父さんとの関わりから、自分の成長や変化に気づく。	①赤ちゃんの家族、自分の家族、友だちとの関わりから、相手の思いを知り、尊敬の気持ちを抱く。

5 単元展開の概要

◇人権教育に関わる配慮点

学習活動	○学習内容 ・予想される児童の反応	・指導支援 <u>評価</u>	時間	備考
1 赤ちゃんと楽しい時間を過ごすには、どうしたらいいだろう。	○基本的なマナーやコミュニケーション、赤ちゃんと関わるために大切なことを確認する。 ・コミュニケーションをふくらますには、相手に関心をもって「みる」「きく」「伝える」ことが大切。 ・聴き方→話し手に体を向けること、視線を届けること ・あいさつ・だっこの仕方・身支度 等 ○振り返りを行う。 ・赤ちゃんとお母さんに会ったら、ちゃんと自己紹介をして、赤ちゃんに優しく接したい。 ・赤ちゃんは「大切な命」。命の重さを考えて勉強したい。 ・「みる」「きく」「伝える」をして、だっこ等をしたい。 ・ふざけないで、真剣に赤ちゃんを抱っこしたい。	◇相手を尊重した接し方について考えさせる。 赤ちゃんたちと楽しい時間を過ごす上での、大切なマナーや行動を知り、心がけようとしている。 C-コ① (行動・学習カード)	1 . 2	掲示物 赤ちゃん人形 学習カード
2 赤ちゃんと赤ちゃんのお母さん方と関わろう。	○事前学習の確認 ○赤ちゃんと対面挨拶、自己紹介、赤ちゃんの親から話をきいた後、関わり体験をする ・赤ちゃん、かわいいなあ。	◇まずは、赤ちゃんのお母さん方から、赤ちゃんを大切に思う気持ちや赤ちゃんのおふだんの様子等を聴く。 ◇子どもたちのありのままの	3 . 4	掲示物

	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんて小さいなあ。 ・壊れちゃいそうでこわい。 <p>○関わり体験での振り返りを赤ちゃんのお母さん方に伝える。お母さん方にも子どもたちに気づいたことや感じたことを伝えていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても優しく接してくれてうれしかったです。 ・いつもぐずる時間だけど、ご機嫌でしたよ。 	<p>関わりを大切にし、見守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループを回り、子どもたちやお母さん方の気持ちを聴く。 <p>◇関わり方のよさを認め、ほめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>赤ちゃんや赤ちゃんの家族と関わる中で、疑問をもち、赤ちゃんのお母さん、お父さんに自分が知りたいことを質問し、関わっている。 A-① (行動・観察カード)</p> </div>		
<p>3 関わり体験を振り返り、次の体験への願いを持つ。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>赤ちゃんとお母さん方との関わり体験を振り返ろう。</p> </div> <p>○関わり体験①を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんはプニプニしていて、とてもかわいかった。 ・人形とは違って、暴れていて大変だった。 ・赤ちゃんのお母さんは、なぜ赤ちゃんが泣いているのか分かってすごい。 ・泣かれるとどうしたらいいか困った。 ・もっと抱っこしたかった。 ・緊張してちょっと困った。 <p>○次の交流でしたいこと、ききたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は、自分の力でだっこさせてもらいたい。 ・パートナーの赤ちゃんが何に興味があるのか知りたい。 ・自分が赤ちゃんの頃読んでもらった本を持って来たい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんやお母さん、お父さんについて、自分自身について、友だちについて、気づいたことや感じたことをまとめさせる。 <p>◇赤ちゃんとお母さん方の家族の立場を尊重した関わり方を考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一回目の交流よりも、自分から話しかけたり、あやしたりして関わる。 C-コ-② (言動・学習カード)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・関わり方の一つとして、絵本はどうか提案する。 	<p>5 ・ 6</p>	<p>学習カード</p>
<p>4 赤ちゃんとお母さん方とも関わろう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みんながもっとハッピーな交流にしよう！ 赤ちゃんとの関わり体験②</p> </div> <p>○赤ちゃんやお母さんお父さんについて、もっと教えてほしいことを質問したり、お母さんお父さんの話を聴いたりする。</p> <p>○赤ちゃんの親から、赤ちゃん成長の様子や質問に対する答え等をきいた後、関わり体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カシャカシャ音がするのが好きなんだな。 ・出産の時、とっても大変だったんだな。 ・赤ちゃんの成長の記録をつけているんだ。大事に思っているんだな。 ・この前よりうまくだっこできないなあ。 <p>○絵本の読み聞かせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくり見てくれてうれしかった。 ・本が好きで、読んであげると泣くのもおさまった。 ・本に興味がなく泣いていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループを回り、子どもたちやお母さん方の気持ちを聴く。 ・前回よりも関わり方がよくなっている様子を認め、ほめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>赤ちゃんや赤ちゃんの家族との関わりを通して、気づいたことや感じたこと等を学習カードにまとめている。 B-① (発言・学習カード)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>赤ちゃんのぬくもり、お母さんお父さんの赤ちゃんへの関わり等から、命の重みを感じる。 C-自-① (発言・学習カード)</p> </div>	<p>7 ・ 8</p>	<p>掲示物</p>

<p>7 赤ちゃんと赤ちゃんのお母さん方ともっともっと関わろう。</p>	<p>最後の交流を、最高にハッピーな交流にしよう！</p> <p>○赤ちゃんのお母さん方の話をきいた後、関わり体験をする。</p> <p>○自分が用意した絵本やおもちゃ等を見せながら関わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後の交流では、おむつ交換もできてよかった。 ・だっこしてミルクをあげたらおいしそうにミルクを飲んくれた。 ・お母さんや友だちにアドバイスしてもらったおかげで、うまくだっこできるようになってうれしかった。 ・手遊び歌をしたら笑ってくれた！ ・絵本をじーっと見てくれた。 ・おもちゃに手を伸ばしてきたよ。 	<p>赤ちゃんとの関わり体験③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループを回り、子どもたちやお母さん方の気持ちを聴く。 ◇これまでよりも関わり方のよくなった姿を認め、ほめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>赤ちゃんのために準備した活動をし、満足する。 A-2 (調・鞆カード)</p> </div>	<p>12 ・ 13</p>	
<p>8 活動を振り返ろう。</p>	<p>「みんながハッピー交流」をふり振り返りまとめよう。</p> <p>○関わり体験③を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃで一緒に遊べてうれしかった。 ・二回目より、本を見てくれた。 ・○○ちゃんから寄ってきてくれてうれしかった。 ・自然と赤ちゃんに触っていた。 <p>○これまでの活動を振り返りながらお礼の手紙を書く。</p> <p>○これまでの授業で気づいたことや学んだことを中心に、まとめて発表しあう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんやお母さん、お父さんについて、自分自身について、友だちについて、気づいたことや感じたことをまとめさせる。 ◇赤ちゃんと赤ちゃんの家族の立場を尊重した関わり方を振り返り、これからの生活に活かしていきたいことを考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>これまでの関わり体験を通して、赤ちゃんに関わる自分の変化に気づく。 C-自-② (紙・鞆)</p> </div>	<p>14 ・ 15</p>	<p>これまでの関わり体験の写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・便箋

6 赤ちゃん交流会までの大まかな流れ・手続き

①研究の方向決め（4月）
②県外研修（5・7月）先進地視察
③児童センターへのお願い（6月）
④児童センター職員との打ち合わせ（8月）日程調整、会場下見など
⑤子育て支援課への依頼（9月）資料
<p>⑥赤ちゃん募集（9月～10月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作り、配布（児童センター、保健センター、教育委員会生涯学習課など） ・市広報への掲載依頼 ・児童センターにいらっしゃるお母さん方やサークルの皆さんへの呼びかけ
<p>⑦参加者名簿作成（10月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別連絡 ・保険の加入（国内旅行総合保険・賠償責任） ・託児の調査
⑧赤ちゃん交流会実施（10月～11月）

・児童センターでの活動 ・アンケートの依頼等

「赤ちゃん交流会（仮称）」授業における交流親子の募集について

〇〇小学校長

〇〇小学校では、人権教育の取組として、「赤ちゃん交流会」を行います。児童が、定期的・継続的な交流を通して、「見る・聴く・伝える」といったコミュニケーションの大切さや身近な人との関わりを再考し、思いやりの心、命の大切さなどを学ぶことを目的としています。つきましては、この授業に参加していただける親子（赤ちゃんとその親）を募集します。

- 1 授 業 赤ちゃん交流会（仮称）
- 2 目 的 児童が赤ちゃんとその親とのふれあい・かかわり体験を通して「相手を思いやる心」「命の大切さ」などについて学び、「身近な人との関わり方を考える」ことを目的としています。
- 3 主 催 〇〇市立〇〇小学校
- 4 共 催 〇〇市子育て支援課
- 5 会 場 児童センター
- 6 実施期日 第1回交流会 平成23年10月12日（水）11：00～12：00
第2回交流会 平成23年10月26日（水）11：00～12：00
第3回交流会 平成23年11月17日（木）11：00～12：00
- 7 対象親子 募集26組
以下の条件を満たす親子を募集します。
①交流開始時点で生後4ヶ月～9ヶ月の赤ちゃん
②全3回とも参加可能であること（当日の急な体調変化による欠席は除く）
③児童センターに来られること
- 8 募集締め切り 平成 年 月 日（ ） ※先着順
- 9 申込方法 指定の様式（添付チラシ裏面）にて、Faxまたは、小学校か児童センターに届けてください。

〇〇市立〇〇小学校
担当
TEL
Fax

この授業の概要とねらい

この授業は、児童一人ひとりが赤ちゃんの表情に心を弾ませたり、手に触ったり、抱っこしたりといった赤ちゃんとのふれあいや、お父さんやお母さんから子育てについてお話等を聴きながら、「他人と関わる際の姿勢」「相手を思いやる心」「命の大切さ」「親への感謝の心」を学びます。



このふれあい体験活動で大切にしていることは、

- ①赤ちゃんやお父さん、お母さんのとの関わりの前に、児童が人と接する上でのマナーや相手の気持ちをくみ取ったり、自分の気持ちを伝えたりする「コミュニケーション」について学習します。
- ②原則として、パートナーを固定し、定期的・継続的にふれあい・関わり活動を行います。学習（ふりかえり）とかかわり体験（実践）を繰り返しながら、児童の心を内側から揺さぶり、単なるイベント的な活動では育むことにできない、人間関係づくりの大切な基礎を築こうとするものです。

お父さんお母さんにとって

児童と関わっていただくお父さんお母さんにとっては、赤ちゃんと一生懸命向き合う児童の姿を通じ、我が子の成長をイメージすることができます。また、他人から愛される様子を目にする事で、改めて我が子への愛情を実感し、毎日の育児生活への励みになるはずです。

ふれあい・かかわり体験活動 参加への条件

授業の効果を高めるために、次のような赤ちゃん・お父さん・お母さんをお待ちしています。

- ①まだ歩くことのできない赤ちゃんであること（ゆったりと関わるができるようにするためです）
- ②全3回参加可能予定であること（当日の急な体調変化による欠席は除きます）
- ③自力で会場に来られること

〈その他〉

- ・児童は、事前にコミュニケーションや身だしなみ、衛生や赤ちゃんの安全について学習した上でふれあい・かかわり体験に臨みます。
- ・会場は、児童センターの絨毯敷きの部屋を予定しています。
- ・実質的な赤ちゃんのかかわりの時間は、約30分程度です。
- ・今後の活動に使用する目的で、ふれあい・かかわり体験の様子を撮影いたします。前もってご了承ください。
- ・活動に際しては、学校で傷害保険に加入いたします。
- ・託児室を用意します。（赤ちゃんの交流時間中、ご兄弟をお預かりします。）

※上記の他に、不明な点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

〇〇小学校 [担当:] Tel Fax

赤ちゃん交流会参加申込書

参加者 <small>ふりがな</small> 氏名	参加保護者	お子さん (生年月日 平成 年 月 日)
連絡先	〒 電話 携帯 (当日の緊急連絡用)	F A X
撮 影	※いずれかに○をしてください	OK NO
託 児 所	※いずれかに○をしてください	利用しない 利用する (人数 年齢)